

横浜

野生稲の保護 豪に刻み込む

自生地の御影石に もみなど表現

未完成の彫刻 制作再開へ

減少する野生稲の自生地を守ろうと、彫刻で訴えてきた横浜市出身の故・田辺光彰さんの遺志を継ぎ、彫刻家2人がオーストラリアに残された田辺さんの未完成の作品を完成させることになった。このほど豪政府の豪日交流基金助成金を受けられることが決まった。

作品があるのは、オーストラリア北部準州の中心都市ダーウインから南へ約40キロの湿地帯。野生稲の自生

地だ。昨年、76歳で亡くなった田辺さんは、地表に出た御影石に当局の許可を得て約10年前から作品を彫り、10点ほどの彫刻が残されているという。田辺さん



御影石に彫られた野生稲のもみ＝オーストラリア北部準州、いずれも田辺光彰美術館提供

の取り組みに賛同する彫刻家2人が、未完成の作品に取り組みすることになった。もみを表現した彫刻では、長さ約82センチにわたる大作もある。野生稲のもみの特徴である、種子の先端にある突起状の長い「芒」も表現されている。自生地を

守るには、その地に生息する他の生物も保護する必要があり、アリやクモ、トカゲ、幼虫なども作品の題材になっている。

田辺さんは多摩美術大で彫刻を学び、彫刻のモチーフを探る中で30年ほど前に野生稲を知った。乱開発で

野生稲の自生地が減っていくことに危機感を覚え、作品で保存をアピールした。横浜市青葉区など、国内にも作品が残されている。



生前の田辺光彰さん

横浜市港北区下田町の日吉の森庭園美術館には、田辺さんの作品や野生稲に関する資料が所蔵されている。田辺さんの長男で学芸員の陵光さん(46)は、「コメは人類の貴重な食料であり、野生稲は品種改良の可能性を広げる。その保護は人類の生存をかけた重要な使命だ」と話す。

(高木和男)

横浜総局
〒231-8504
横浜市中区日本大通15
☎ 045-681-6101
fax 045-641-9696
mail kanagawa@asahi.com

田園都市支局
〒225-0011
横浜市青葉区あざみ野2-12-5
☎ 045-904-9010
fax 045-904-9020

川崎 ☎ 044-244-4306
厚木 ☎ 046-221-3300
湘南 ☎ 0466-26-4911
横浜質 ☎ 046-822-0211
鎌倉 ☎ 0467-22-0123
小田原 ☎ 0465-32-3822
相模原 ☎ 042-752-3150
平塚 ☎ 0463-35-3246